

9月12日（水） 平成30年度 海外実地研修18日目（最終日）

9月11日の午後に、ヘルシンキ空港をフィンランド航空AY0073便で飛び立ち、約9時間をかけて成田空港へ帰着しました。機内では各自仮眠をとったり、映画を観たり、機内後部スペースで談笑するなどをして過ごしました。シベリア上空の明け方、次第に赤みを帯びていく地平線を撮影しました。空が明るくなり朝食が提供され、それから2時間ほどで成田空港に到着しました。



図1 日の出前

検疫とパスポートコントロールを受け、預けた荷物を受け取り、一同最後の集合。18日間の長丁場で、若干の疲れもありましたが、佐野充先生の解散の号令に「お疲れ様でした！」と大きな声で応え、税関検査へと向いました。その後、それぞれ高速バス、鉄道各社などを利用して帰路に着きました。

振り返ると全行程の中で様々な事がありました。初めての体験で楽しかったこともあれば大変だったこともありましたが、現地での英語を使つての現地の市民の方々との交流はよい経験になりました。また、訪問先の各都市で実施した観光客アンケート調査では様々な国籍の観光客とコミュニケーションをとることができ、貴重な体験を積むことができました。現地レポートでは紹介できなかった様々なエピソードや各都市の様子、または海外の過ごし方などにつきましては、ぜひ直接学生に尋ねてみてください。

海外渡航にあたり、佐野充教授と任海准教授そして補佐の柴波さんと中岡裕章さんに様々な指導や助言を頂きました。この場をお借りして御礼を述べさせていただきます。

「楽しく貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。」今回の巡検が最後の海外実地研修となられる佐野充教授とご一緒できたことが一生の宝となりました。

最後に、今年度の巡検を実施するにあたりサポートして下さった大学関係者とOB・OGの皆様、旅行会社の皆様に厚く御礼申し上げます。そして何よりも私たちが快く送り出してくれた我々の家族に心より感謝いたします。

最後まで現地レポートを読んでいただきありがとうございました。

（筆者：地理学科3年・文化班 大石治憲）